



## ～令和8年産 稲作のポイント～

近年の高温年では、登熟期に葉色が低下（栄養状態が悪化）し、白未熟粒の発生が増加しています。適正な追肥も有効ですが、生育後半は地力窒素への依存度が高まるため、良質な堆肥の施用により、地力の増強に努める必要があります。

石巻管内はブロックローテーションにより転作頻度が高いですが、水田の有機物含量や可給態窒素含量は、12年間で半減し、地力が急激に低下します（図1）。

以下の対策により、地力増強を図りましょう。

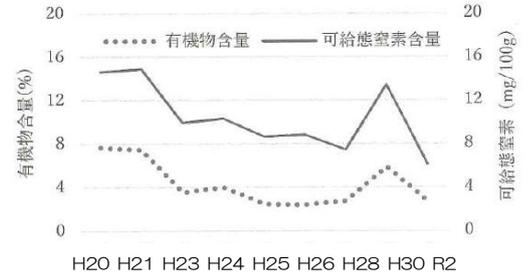


図1 転作頻度の高い水田における地力の推移 (古川農試 研究報告16号)

### 土づくり

#### 1 堆肥・土づくり肥料の施用

土壌に入った有機物は分解が進むと黒色の腐植として存在し、土壌の保肥力や膨軟性の向上に大きな役割を果たします。

土づくりには、稲わら堆肥や窒素成分1.5%以下の牛ふん堆肥が効果的です。土質に応じて1t/10aを目安に、ほ場の肥沃度や排水条件を見ながら施用しましょう（表1）。

また、ケイ酸資材などの土づくり肥料の施用も有効です。令和7年度は一部で倒伏するほ場が見られましたが、ケイ酸資材は春施用のほかに追肥も効果が高く、近年は流し込みによる施用も行われています（表2）。ケイ酸は、根張の向上や稲体の強化（倒伏軽減・いもち病抵抗性強）、受光体勢の改善による登熟の良化などが期待されます。

表1 土壌群別土づくり肥料とたい肥の施用量

土壌群	土づくり肥料		たい肥 <sup>注)</sup> (t/10a)
	ケイ酸質 (kg/10a)	リン酸質 (kg/10a)	
黒ボク土	120~160	60~120	1.0~1.5
灰色低地土	60~100	40~100	1.0~1.5
グライ土	80~100	40~100	1.0~1.2
黒泥・泥炭土	120~160	60~120	0.8~1.0

注) 稲わらやもみがら主体のたい肥の施用量

家畜ふん由来のたい肥は畜種やC/N比等によって施肥量を調整しましょう。

表2 ケイ酸資材の施用量 (引用：JAいしのまき稲作栽培マニュアル)

用途	使用資材	現物施用量	留意事項
土づくり	粒状ようりんケイカル13号	140kg/10a	秋施用・春施用可
土づくり	とれ太郎	60~80kg/10a	秋施用・春施用可
土づくり	シリカ未来	60~100kg/10a	秋施用・春施用可
土づくり	みつパワー	60~120kg/10a	秋施用・春施用可

#### 2 深耕

根域を拡大することで、根量を増加させ、効率的に地力窒素や施肥窒素を吸収できるようになります。適正作土深は15cm程度とされており、急激に深耕すると下層土の栄養分の少ない土壌が作土に混入し水稻の生育に影響する場合があります。1年に1cm程度深くすることを目標に、有機物還元や土づくり肥料の施用と併用して行いましょう。

# 移植栽培 育苗～田植え

## 1 種籾準備

比重選は表3を参考に行い、充実した種子を確保するようにしてください。充実した種子は発芽力が強く、生育も良好であり、種子伝染性病害の抑制も期待できます。また、比重選後は必ず水洗いし、塩分などを除いてください。

表3 比重選の目安

種類	比重	水10ℓに対する必要量 (kg)	
		食塩	硫安
うるち種	1.13	2.1	2.7
もち種	1.08	1.2	1.5

## 2 種子消毒

必ず浸種前に温湯消毒法や化学農薬による湿粉衣法・浸種法のいずれかを実施しましょう。薬剤量、濃度、処理温度、処理時間については基準を厳守しましょう。

### ・温湯消毒法

温湯浸種処理は、ばか苗病、苗立枯細菌病、いもち病の3病害に発病抑制効果があります。ばか苗病の抑制には、63℃ 5分間の処理が効果的です。

### ・湿粉衣法・浸種法

種子消毒用生物農薬を使用する場合、薬剤の混用により防除効果が損なわれることがあります。使用方法を厳守しましょう。

## 3 浸種

積算水温で100℃を目安とし、10℃で10日間、15℃で7日間程度としますが、10℃以上のやや低い水温でゆっくり浸種した方が催芽・出芽の揃いは良くなります。休眠性の強い「ひとめぼれ」の積算水温は120℃とし、水換えは2～3日ごとに行ってください。

また、高温年に生産された種子は休眠が深く、発芽しにくくなっています。浸種は基準の水温と日数をやや延長し、催芽状況をよく確認してください。

## 4 催芽

催芽種籾はハト胸程度とし(図2)、伸びすぎないように注意してください。催芽器を使用する場合は「ひとめぼれ」では28℃で16～20時間程度、「ササニシキ」では14～18時間程度です。催芽開始時刻は翌日の播種作業時間から逆算して決定してください。また、催芽後は保管せず速やかに播種作業を行ってください。保管日数が長くなるほどばか苗病の発病が多くなります(普及に移す技術第97号)。

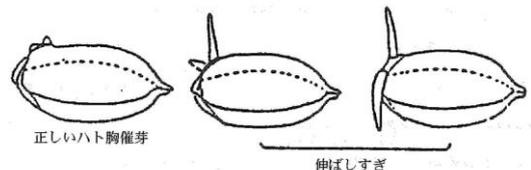


図2 種籾の正しい「ハト胸」状態 (原図：星川)

## 5 育苗

健苗を育成するためには、育苗日数に応じた播種量を守り、適切な温度管理・水管理を行うことが重要です。

以下のポイントを参考に適切な管理を行ってください(表4)。

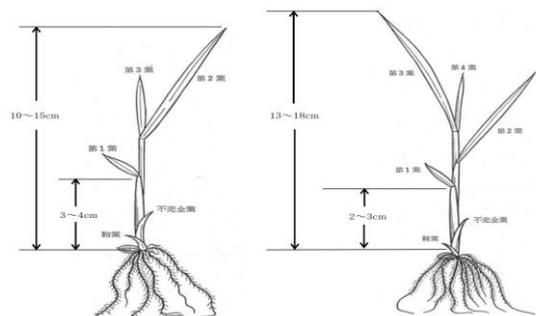


図3 田植適期の稚苗(左)及び中苗(右) (稲作大百科、社団法人農山漁村文化協会)

表4 ハウス育苗管理のポイント

		稚苗 (2.1~2.5葉)		中苗 (3.5~4葉)
		加温育苗	無加温育苗	無加温育苗
播種量	乾粃	160~180g/箱	160g/箱	100g/箱
	催芽粃	200~225g/箱	200g/箱	125g/箱
	育苗日数	20~25日	20~30日	30~35日
施肥量		N・P・K 各2g/箱		N・P・K 各1.5g/箱
出芽	温度：細菌病予防のため <u>30℃を超えない。</u> ・芽長は覆土上1cm程度 で出芽終了	目標温度：昼間25℃、夜間10℃程度 ・半遮光性資材（シルバーポリトウ等）を箱全 体にべた張り、すきまのないよう押さえる		
緑化	目標温度：昼間25℃、 夜間10℃程度 ・かん水は原則しない ・適度な遮光性資材（ラ プシート等）を2~3 日べた掛けする。			
硬化	目標温度：昼間20~25℃、夜間10℃程度 ・5℃以下の低温時は被覆資材で保温対策 ・かん水は緑化終了時の 床土が乾燥したタイミ ングでたっぷり行う。 ・追肥は葉色が淡くなる 1.5葉期頃にN 1g/箱 ・田植5~7日前になっ たらハウスを開放して 苗を外気にならす。	・第1葉が展開し第2葉が抽出し始めたら徐覆 し、加温育苗と同様の硬化を行う。 ・追肥は稚苗1.5葉期及び中苗2.5葉期に N 1g/箱		

◎プール育苗

プール育苗はかん水や温度管理等が大幅に省力化され、作業時間の短縮が可能になります。  
 水管理：入水は緑化終了時を目安に行ってください。最初の入水は床土の高さ程度とします。その  
 後の水深は苗の草丈の半分程度とし、水面が床土の高さになったら水を補給した方が病害  
 の発生が少なくなります。

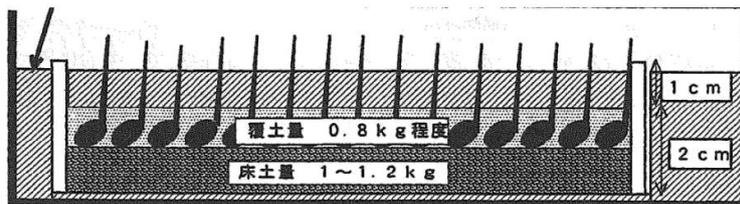


図4 育苗箱の模型図と水管理

◎高密度播種

高密度播種は育苗箱当たりの播種量を多くすることで、育苗箱数を削減する技術です。育苗日数は加温育苗のひとつめぼれで14~20日程度としてください。第一葉の黄化や枯れ上がりが慣行播種量よりも早く、苗が老化しやすいため、適切な育苗日数で作業を行いましょ。

## 6 病害防除

表5 水稲育苗期間中に見られる主な病害

主な病害	病徴	発生要因	予防法	
イネばか苗病 	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1葉鞘、新葉が徒長し、淡緑色となる。</li> <li>根数が少なく、籾や苗の基部が暗褐色～暗紫色となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>り病種子の使用</li> <li>種子消毒の不徹底</li> <li>不完全な覆土</li> <li>育苗中の高温多湿</li> <li>過度な厚まき</li> <li>保菌した稲わら、籾の放置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全種子の使用</li> <li>塩水選</li> <li>種子消毒</li> <li>播種、育苗時の適切な温度管理</li> </ul>	
もみ枯細菌病 	<ul style="list-style-type: none"> <li>新葉が途中からねじれながら湾曲して出葉する。</li> <li>新葉基部が白～暗褐色となり、腐敗枯死する。</li> <li>発生は坪枯れ状</li> <li>葉基部の中心部を手で引くと容易に抜ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>り病種子の使用（出穂期の高温多雨で籾感染が多発）</li> <li>育苗中の高温多湿</li> <li>過度な厚まき</li> <li>床土のpHが高い（pH5.5以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全種子の使用</li> <li>塩水選</li> <li>床土を適切なpH5.0～5.5に調整</li> <li>育苗温度30℃以下</li> <li>水分過多にしない</li> </ul>	
苗立枯細菌病 	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期症状はしおれて乾枯。</li> <li>枯芯は腐敗せず抜けない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>り病種子の使用（出穂期の高温多雨で籾感染が多発）</li> <li>育苗中の高温多湿</li> <li>過度な厚まき</li> <li>床土のpHが低い（pH5以下）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健全種子の使用</li> <li>塩水選</li> <li>床土を適切なpH5.0～5.5に調整</li> <li>育苗温度30℃以下</li> <li>水分過多にしない</li> </ul>	
苗立枯病	フザリウム属菌 	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育不良で萎凋枯死する。</li> <li>地際部・根は褐変</li> <li>地際部・籾に白～淡紅色のカビが蔓延</li> <li>菌の種類によって籾や根が紅色になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑化開始後間もない頃の低温</li> <li>傷籾の使用</li> <li>前年の発病土、畑土壌の使用</li> <li>育苗管理不良（乾燥、過湿など）</li> <li>肥料不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>損傷種子使用を避ける</li> <li>塩水選</li> <li>種子消毒</li> <li>床土を適正なpH5.0～5.5にする</li> <li>育苗施設・資材を清潔にする</li> <li>育苗温度管理を適正にする</li> </ul>
	ピシウム属菌 	<ul style="list-style-type: none"> <li>地際部は水浸状を呈し、急激に枯死する。</li> <li>地際部にカビはみられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑化開始後間もない頃の低温</li> <li>傷籾の使用</li> <li>前年の発病土、畑土壌の使用</li> <li>河川、池の水の利用</li> <li>育苗期間の過湿</li> </ul>	
	リゾプス属菌	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑化開始時に箱全体が白カビで覆われる。</li> <li>黄緑色に退色</li> <li>根は短く、数も少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出芽時の高温多湿</li> <li>過度な厚まき</li> <li>緑化開始後10日間位までの低温</li> <li>傷籾の使用</li> <li>土壌の過湿</li> <li>窒素肥料の多用</li> <li>汚染度の高い育苗箱施設、資材の使用</li> </ul>	
	トリコデルマ属菌 	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の黄化が激しい。</li> <li>根は短く、根数も少なく褐変する。</li> <li>地際部や籾に青緑色のカビの塊（孢子塊）がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出芽時の高温</li> <li>乾燥ぎみでpH4以下の土壌使用</li> <li>前年の発病土使用</li> <li>土壌水分の不足</li> <li>汚染度の高い育苗施設、資材の使用</li> </ul>	
	リゾクトニア属菌	<ul style="list-style-type: none"> <li>苗が黄化し、下葉や葉鞘が灰緑色かつくもの巣状のカビが見られる。</li> <li>り病部には白～淡褐色の小さな菌核を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>畑土壌の使用</li> <li>過度の厚まき</li> <li>多肥</li> <li>風通しが悪く、高温多湿</li> </ul>	

※薬剤による防除対策についてはJAいしのまきの稲作栽培マニュアル等を参考にしてください。

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守してください。

最新の農薬登録情報は、右記の農林水産消費安全技術センターHPで確認できます。



## 7 本田管理

### ◎ 代かき

浮き苗の防止や除草剤の効果を高めるためにも、できるだけ均平になるよう、精度の高い代かきを行いましょう。また、転作あとの復元田は排水性が良く、水稻連作田より水もちが悪くなります。畦畔の補修や丁寧な代かきで漏水防止に努めましょう。代かきを行う際には残稈の浮き上がりを防止するため、極端な浅水で行いましょう。

### ◎ 田植え

活着や初期生育を良好にするため、田植えは温暖で無風な日に実施してください。強風下（風速4m/s）では植傷みや浮き苗が発生するため避けましょう。特に西寄りの風は空気が乾燥し、強風になりやすいため、植傷みが大きくなります。

### ◎ 水管理

水管理は、分けつ、根の活性化など水稻の生育、収量に大きな影響を与えるため、適切に管理を行いましょう。

田植え直後：苗は根からの吸水が少なく、茎葉からの蒸散が多いため、強風の日は、葉先が2～3cm出る程度のやや深水とし、葉身の萎凋を防ぎましょう。

苗活着後：水深2～3cmの浅水管理。低温や晩霜の心配がある場合は水深5～6cmの深水管理。

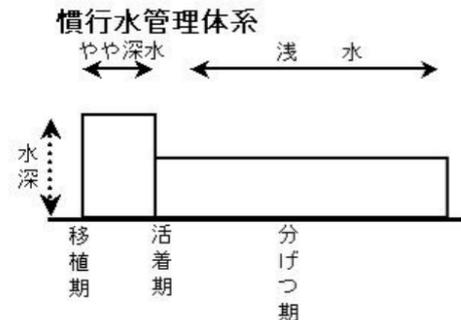


図5 初期生育の慣行水管理体系

### ◎ 晩期栽培

晩期栽培は出穂期を8月15日前後に遅らせて、冷害や高温登熟を回避し、品質の安定化を目指す栽培法です。田植え時期を遅らせることより「播種時期を遅らせる」ことが重要です。

播種日が遅いと気温が高い時期の育苗となり育苗期間が短くなります。5月20～25日田植えの場合は、稚苗では5月初めの播種が目安となります。最近では春先の高温により生育が早く、徒長苗になりやすいため、気象予報等を確認しながら、播種・田植えの日程を計画しましょう。

※やませの影響がある三陸沿岸地帯（北上地区、河北大川地区）では晩期栽培は必要ありません。

ただし、早すぎる田植えは植傷みや活着不良の原因になるので5月上旬の連休に代かき→連休明け田植えとしましょう。

## 今後の気象経過

◎1か月予報（3/14～4/13） 令和8年3月12日 仙台管区气象台発表抜粋

東北太平洋側では、向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みで、少雨の状態が続くところもあるでしょう。

地域	気温	降水量	日照時間
東北 太平洋側	低10 並20 高70% 高い	少40 並40 多20% 少ない	少20 並40 多40% 平年並みか多い

◎3か月の天候（東北 太平洋側）

令和8年2月24日 仙台管区气象台発表抜粋

期間	気温	天気
3月	低20 並40 高40%	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
4月	低10 並30 高60%	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 気温は、高い確率60%です。
5月	低20 並40 高40%	天気は数日の周期で変わるでしょう。 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

注) 季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量、日照時間を「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。



## 乾田直播栽培 播種～出芽後の管理

### 1 播種 高い砕土率、適正な播種深、播種後の鎮圧

播種床は砕土率を確保して、トラクタのタイヤ跡が3～5cm沈む程度の硬さにしてください(図6)。砕土率を確保することで、土壌処理剤(除草剤)の効果をしっかりと得ることができます。

播種量の目安は、乾粃で4～6kg/10aです。播種深度は2～3cm程度、播種後の鎮圧をしっかり行ってください。播種後の鎮圧には、種子と土壌の密着による出芽率の向上、土塊の破壊、播種深の安定化、漏水の防止効果があります。



図6 砕土率と播種床の硬さ

### 2 水管理 原則は乾田、必要に応じて走水(フラッシング)

出芽が揃うまでは、乾田状態としますが、播種後に降雨がほとんどない場合は、走水(フラッシング)をして土壌に水分を供給します。また、播種後のまとまった降雨後に乾燥し、土壌表面が硬いクラスト状(土壌表面が固まった状態)になった場合は、イネの出芽を阻害するため、走水により土壌表面を軟らかくします。出芽状況と気象条件、土壌表面を確認して水管理を行いましょう。

イネの葉齢が1.5～2葉になったら、入水を始めます。始めは、2～3日に1回程度の給水とし、イネが水没しないような浅水とします。イネの生長に合わせて徐々に水深を深くしていきます。

### 3 出芽 適正な出芽数の確保【m<sup>2</sup>当たりの出芽数の目標100本/m<sup>2</sup>以上】

出芽の良否は、その後の生育や収量に影響するため、適正な出芽数を確保しましょう。5月上旬から中旬には、出芽率を確実に把握しましょう。出芽数の目標と調査方法、出芽日の予測については、以下を参照してください。

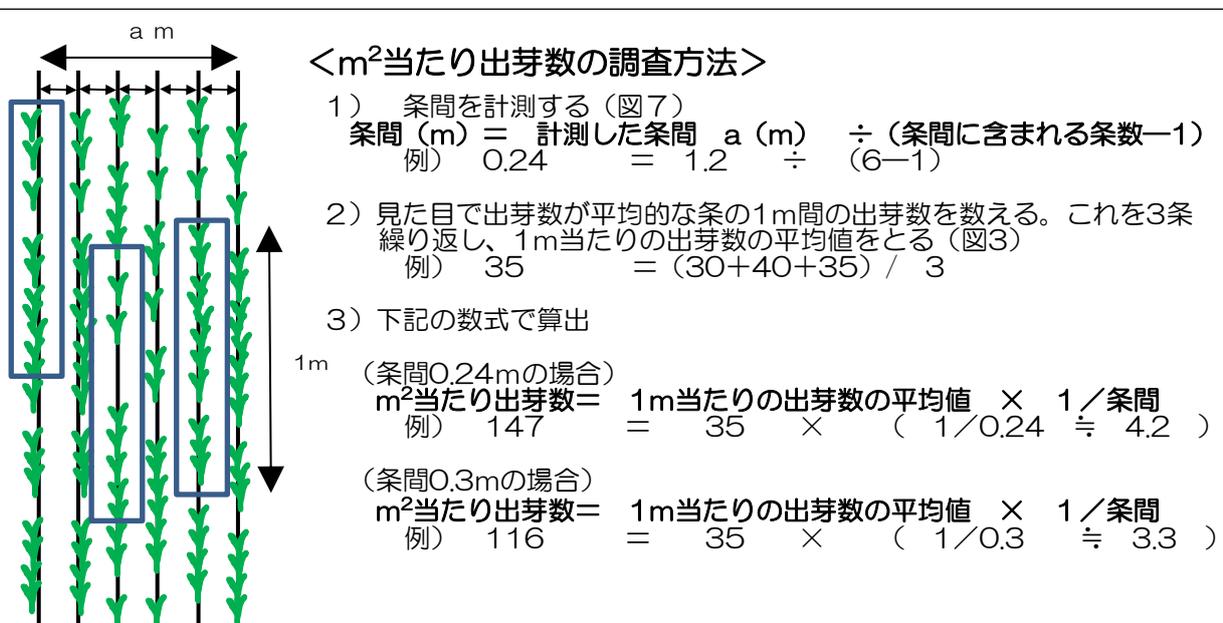


図7 出芽数の調査方法

## 4 雑草防除

乾田直播栽培における雑草防除は除草剤による体系処理が基本です。

◆入水前の乾田期の体系処理（図8）。

体系処理1：土壌処理剤＋選択性除草剤

体系処理2：非選択性除草剤＋選択性除草剤

体系処理3：選択性除草剤①＋選択性除草剤②

雑草の発生量、作業体系、経済性を考慮して、適切な除草体系を選択しましょう。

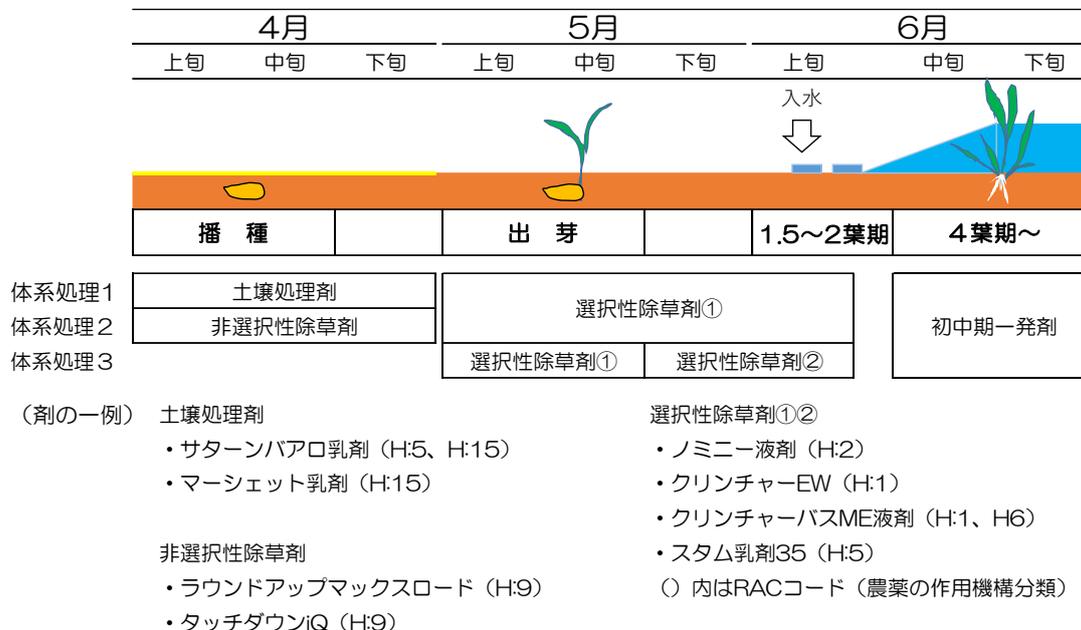


図8 乾田直播栽培の入水前の除草体系

### <出芽日の予測>

1回目の非選択性除草剤の散布時期を決めるために重要な情報で、播種後の平均気温11.5℃以上を有効積算温度とし、50℃に達する日を出芽日とする予測手法があります。過去の石巻アメダスの気象データでは、4月中旬頃までに播種すれば、4月下旬～5月中旬頃に、有効積算気温50℃に達します（表6）。

※石巻アメダスデータは下記のQRコードから検索できます。表7を活用して積算してみましょう。

※出芽予測は、ほ場の水分状態等によっては、実際の出芽とずれる場合もあります。出芽が近づいたら、

種子を確認して実際の出芽の状況を観察しながら、除草剤の散布時期を検討しましょう。

表6 過去6か年における有効積算温度50℃に達した日（4月10日播種）

令和元年度	5月16日
令和2年度	5月13日
令和3年度	5月13日
令和4年度	5月8日
令和5年度	5月10日
令和6年度	4月27日
令和7年度	5月14日

### 【参考QRコード】

1 石巻地域乾田直播栽培事例集（石巻普及HP）



2 乾田直播栽培技術マニュアル(ver.3.2) -ブラウ耕鎮圧体系- 東北農業研究センターHP



3 気象データ検索（気象庁HP）



表7 出芽日予測シート

石巻アメダス

有効積算温度（平均気温-11.5℃）

除草剤散布時期：有効積算30℃前後 出芽日：有効積算50℃以上

令8年度（2026）				平年値	（参考） 令和7年度（2025）				（参考） 令和6年度（2024）			
月日	平均気温	有効積算温度	積算気温	気温	月日	平均気温	有効積算温度	積算気温	月日	平均気温	有効積算温度	積算気温
3月25日				5.8	3月25日	12.3	0.8	0.8	3月25日	9.9	0	0
3月26日				5.9	3月26日	11.3	0	0.8	3月26日	4.6	0	0
3月27日				6	3月27日	9.8	0	0.8	3月27日	5.3	0	0
3月28日				6.2	3月28日	11.7	0.2	1	3月28日	7.7	0	0
3月29日				6.4	3月29日	5.5	0	1	3月29日	12.7	1.2	1.2
3月30日				6.5	3月30日	4.6	0	1	3月30日	11.7	0.2	1.4
3月31日				6.7	3月31日	4	0	1	3月31日	10.4	0	1.4
4月1日				6.9	4月1日	4.4	0	1	4月1日	8.7	0	1.4
4月2日				7.1	4月2日	7.3	0	1	4月2日	9.2	0	1.4
4月3日				7.3	4月3日	5.4	0	1	4月3日	9.7	0	1.4
4月4日				7.5	4月4日	6.9	0	1	4月4日	12	0.5	1.9
4月5日				7.7	4月5日	7.7	0	1	4月5日	9.7	0	1.9
4月6日				7.9	4月6日	10.9	0	1	4月6日	10	0	1.9
4月7日				8.1	4月7日	11	0	1	4月7日	14.7	3.2	5.1
4月8日				8.2	4月8日	10.2	0	1	4月8日	16	4.5	9.6
4月9日				8.4	4月9日	9.8	0	1	4月9日	11.1	0	9.6
4月10日				8.6	4月10日	9.9	0	1	4月10日	8.9	0	9.6
4月11日				8.8	4月11日	12	0.5	1.5	4月11日	11.2	0	9.6
4月12日				9	4月12日	11.8	0.3	1.8	4月12日	14	2.5	12.1
4月13日				9.1	4月13日	9.8	0	1.8	4月13日	13.6	2.1	14.2
4月14日				9.3	4月14日	10.8	0	1.8	4月14日	14.4	2.9	17.1
4月15日				9.5	4月15日	9.1	0	1.8	4月15日	15.6	4.1	21.2
4月16日				9.6	4月16日	9.8	0	1.8	4月16日	15.8	4.3	25.5
4月17日				9.8	4月17日	12.5	1	2.8	4月17日	15.8	4.3	29.8
4月18日				10	4月18日	14.9	3.4	6.2	4月18日	14.6	3.1	32.9
4月19日				10.1	4月19日	16.5	5	11.2	4月19日	13.5	2	34.9
4月20日				10.3	4月20日	12.8	1.3	12.5	4月20日	13.1	1.6	36.5
4月21日				10.5	4月21日	12	0.5	13	4月21日	12.9	1.4	37.9
4月22日				10.7	4月22日	10.6	0	13	4月22日	13.8	2.3	40.2
4月23日				10.9	4月23日	11.8	0.3	13.3	4月23日	13.4	1.9	42.1
4月24日				11	4月24日	13.5	2	15.3	4月24日	14.1	2.6	44.7
4月25日				11.2	4月25日	11.5	0	15.3	4月25日	16.2	4.7	49.4
4月26日				11.5	4月26日	11.2	0	15.3	4月26日	16.5	5	54.4
4月27日				11.7	4月27日	14.3	2.8	18.1	4月27日	17.7	6.2	
4月28日				11.9	4月28日	12.4	0.9	19	4月28日	17.8	6.3	
4月29日				12.1	4月29日	11.3	0	19	4月29日	17.1	5.6	
4月30日				12.3	4月30日	10.8	0	19	4月30日	17.7	6.2	
5月1日				12.4	5月1日	12.1	0.6	19.6	5月1日	13.9	2.4	
5月2日				12.6	5月2日	14.4	2.9	22.5	5月2日	13.7	2.2	
5月3日				12.8	5月3日	14.6	3.1	25.6	5月3日	15.7	4.2	
5月4日				12.9	5月4日	14.3	2.8	28.4	5月4日	16.1	4.6	
5月5日				13	5月5日	14.5	3	31.4	5月5日	18	6.5	
5月6日				13.2	5月6日	11.3	0	31.4	5月6日	18.8	7.3	
5月7日				13.3	5月7日	12.5	1	32.4	5月7日	17.4	5.9	
5月8日				13.4	5月8日	12.9	1.4	33.8	5月8日	13.8	2.3	
5月9日				13.5	5月9日	14.5	3	36.8	5月9日	11	0	
5月10日				13.6	5月10日	14.4	2.9	39.7	5月10日	14.5	3	
5月11日				13.7	5月11日	16.4	4.9	44.6	5月11日	17	5.5	
5月12日				13.8	5月12日	12.7	1.2	45.8	5月12日	18.2	6.7	
5月13日				13.9	5月13日	15.4	3.9	49.7	5月13日	15.5	4	
5月14日				14.1	5月14日	16.3	4.8	54.5	5月14日	13.9	2.4	
5月15日				14.2	5月15日	16.5	5	59.5	5月15日	15.1	3.6	

例：3月25日播種：5月13日出芽 例：3月25日播種：4月25日出芽